

2025年度（令和7年度）健生くまのこ園 施設自己評価

実施月：2026年3月31日

No.	評価項目	スコア	重要度	所見・取り組み状況
1	基本的理念と保育方針	3	高	理念の理解や人権配慮など、保育の根幹となる部分は標準的に遂行されている。今後は、主体性を引き出す援助の具体例を職員間で深め、さらなる質の向上を目指す。
1 - 1	施設として子どもの人権に十分配慮するとともに、健生の保育理念/目標/方針を目指した保育が行われている	3	高	
1 - 2	先入観による固定的な観念を植え付けない保育が行われている	3	高	
1 - 3	施設として子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って活動できるような保育/援助ができています	3	高	
2	保育のねらい・計画・評価	3	高	指導計画の作成や共有は適切に行われている。各年齢の発達段階に応じた「10の姿」の意識をより具体的に日々の記録や活動に落とし込むための校内研修を強化したい。
2 - 1	子どもの発達の過程、特徴を理解し、保育方針や月のねらいに即した保育/援助ができています	3	高	
2 - 2	職員が入園から就学（卒園）までの発達の連続性、保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をイメージ・理解して保育が提供できている	3	中	
2 - 3	保育目標やねらいを基に、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している	3	高	
2 - 4	職員へ保育/指導計画の共有が行われ、具体的な計画・実行・振り返りについてディスカッションできる場がある	3	高	
3	特別支援・障がい児保育	3	低	個別配慮の立案はなされている。多様な特性を持つ子ども一人ひとりに対し、より専門的な視点を持った関わりができるよう、外部研修の活用や専門機関との連携を密にする。
3 - 1	障害のある子どもの特性に合わせた個別配慮を立案し、個別の配慮を念頭とした関わりが現場できている	3	低	
4	保育内容	3	中	基本的な生活習慣の定着や異年齢交流は安定している。今後は、将来の学びにつながる言語・数概念などの環境構成を工夫し、子どもの興味をより広げる取り組みを推進する。
4 - 1	生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくような保育士の関わり、援助が保育内で展開されている	3	中	
4 - 2	各年齢/クラスごとの発育/成長に応じた保育活動・環境づくりをしている	3	高	
4 - 3	異年齢の交流活動など子ども同士の関わりや集団における社会性の成長を目指した保育が実践できている	3	低	
4 - 4	言葉や数字など将来につながる様々な学習機会を保育内で取り入れ、実践している。	3	低	
5	食育の推進	4	中	調理スタッフと保育士、保護者の三者が密に連携し、アレルギー対応や情報共有が非常に円滑。個々の喫食状況に合わせたきめ細やかな対応が継続されている。
5 - 1	調理スタッフや管理栄養士、保護者と連携し、個々の食物アレルギー、食事の様子などの情報共有を定期的に行っている	4	中	
6	安全管理	3.67	高	SIDS対策やヒヤリハットの共有は高い水準で実施。基本マニュアルの遵守を徹底しつつ、事故防止に対する職員の意識を常に高い状態で維持する体制を構築している。
6 - 1	感染症、事故防止など安全管理に対する施設方針やマニュアルが整備され、職員が理解し、実践している	3	高	
6 - 2	アレルギー見への対応/対策、午睡時のチェック管理、SIDS等について定期的な注意喚起がなされている。また職員が業務にて意識し取り組んでいる	4	高	

6 - 3	施設内で起こった事故およびヒヤリハットを職員全員が共有できる場や方法を設けている	4	中	
7	災害対策	4	高	災害マニュアルの周知が徹底されており、いつ起こるかかわらない有事への備えが全職員に浸透している。定期的な訓練を通じて、即応体制の維持に努めている。
7 - 1	園の災害対応マニュアルが周知されており、それに則り対応できるよう備えが来ている	4	高	
8	家庭との連携（在園児）	4	中	日々の情報共有に加え、保護者の悩みに対する寄り添いや地域ニーズの把握が非常に手厚い。園と家庭の信頼関係構築が、園運営の大きな支柱となっている。
8 - 1	子どもの体調や様子について保育内で情報共有が行えている。また保護者への情報共有ができています	4	中	
8 - 2	活動内容を伝えるだけでなく、個々の学びや成長の変化について保護者へ伝えることが来ている	4	低	
8 - 3	保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になれるよう心掛け、対応している	4	高	
8 - 4	入園希望者など地域の保育ニーズを把握し、必要に応じ、自治体情報の提供や子育て相談に対応している	4	高	
9	職員の資質向上・フォローについて	4	中	リーダー層の率先した行動や、心理的安全性の高い職場環境づくりが功を奏している。自己研鑽と相互フォローの文化が定着しており、組織としての成長が見られる。
9 - 1	職員が個人の目標/振り返りを通し課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	4	中	
9 - 2	リーダーとして園長、管理者、主任等が率先し自身の保育知識・技術を向上させる行動が来ている。また、学んだ知識やスキルを職員へ共有する機会・行動を行なっている	4	低	
9 - 3	保育現場において上司や同僚から振り返り、助言を安心して受けられる環境・機会を設けている	4	高	
9 - 4	園の決定事項共有事項について、職員が納得できるよう十分に理解を促す配慮が来ている	4	高	

【2026年度 健生くまのこ園 自己評価総評】

本年度の自己評価結果に基づき、当園の運営状況と今後の課題についてご報告いたします。

1. 重点的に取り組んだ事項と成果

本年度は特に**「家庭との連携」および「職員の資質向上」**に注力いたしました。保護者の皆様との対話を重視し、子どもの成長を共に喜び、悩みを共有できる関係性を築けたことは、日々の安定した保育の基盤となりました。また、職員一人ひとりが課題意識を持ち、お互いに助言し合える環境が整ったことで、組織としての対応力が向上いたしました。食育面においても、調理・保育・家庭が一体となったアレルギー対応や栄養管理を実施し、高い評価を得ております。

2. 安全・安心への取り組み

災害対策および安全管理については、マニュアルの徹底とヒヤリハットの共有を日常化しております。特にSIDS（乳幼児突然死症候群）防止やアレルギー児への対応など、命に関わる業務については常に高い緊張感を持って取り組み、安全な保育環境の維持に努めました。

3. 今後の課題と展望

保育内容および指導計画については、現状の標準的な水準に満足することなく、さらなる「質の向上」を目指します。特に以下の点について次年度の重点目標といたします。

主体性を育む環境の深化：子どもが自ら考え、行動できる環境構成の再構築。

特別支援保育の専門性向上：個別配慮が必要な子に対する、より具体的かつ専門的な援助技術の習得。

教育的アプローチの充実：遊びを通じた言葉や数字への興味・関心を広げる活動の導入。

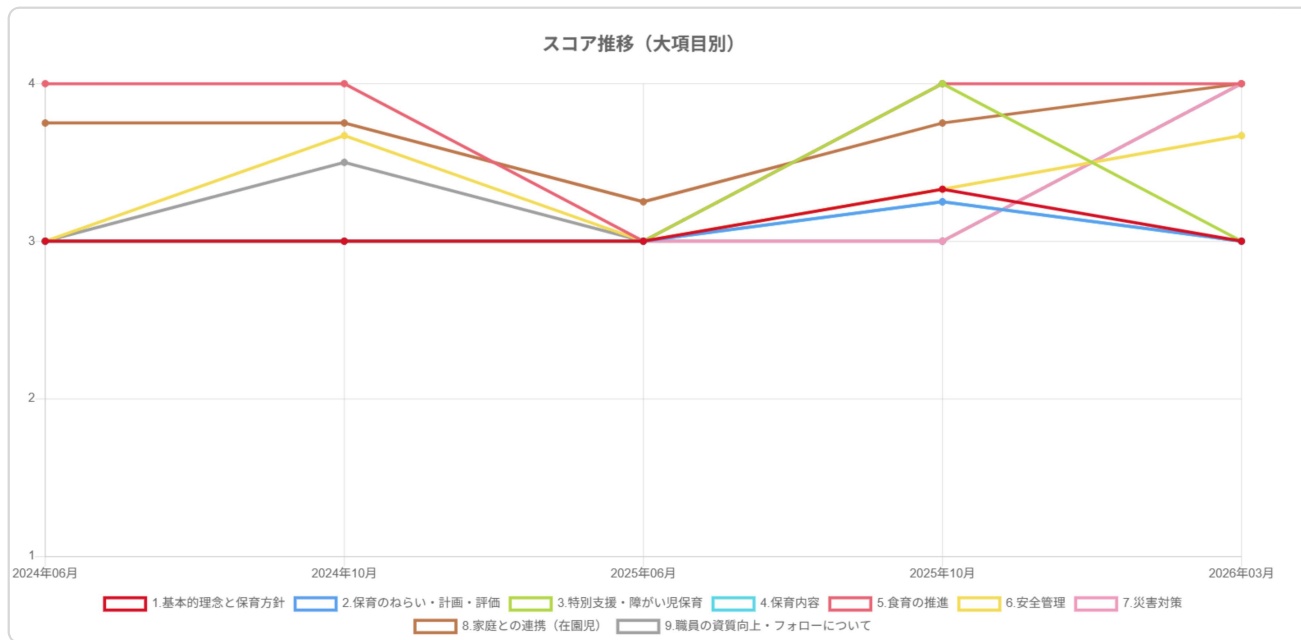
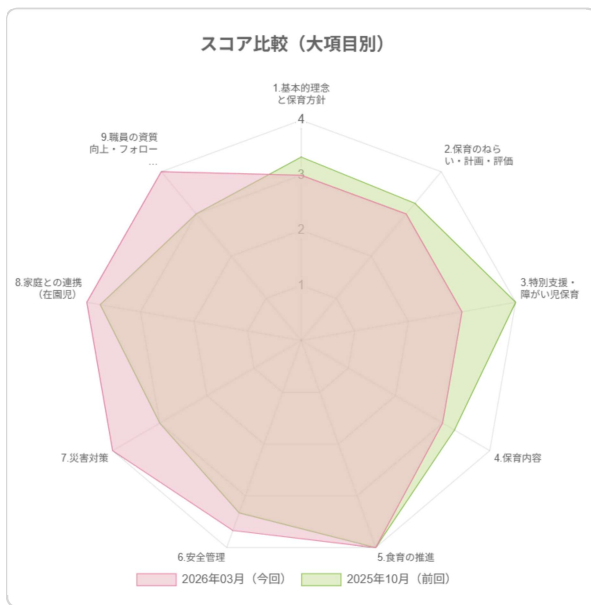
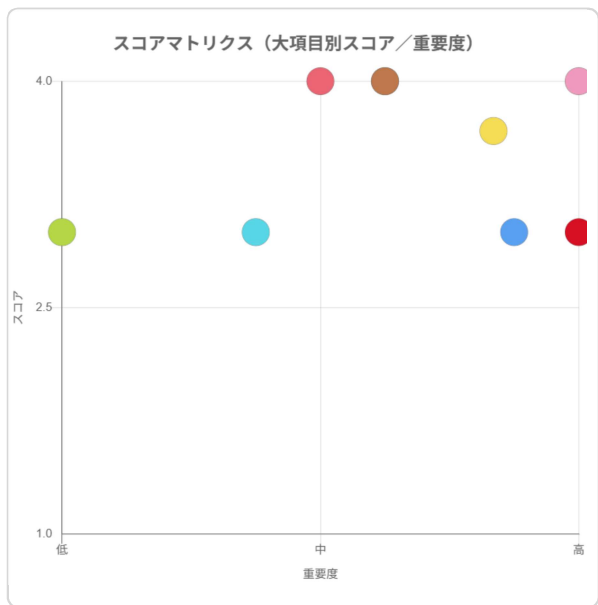
健生くまのこ園は、今後も子どもたちの人権を尊重し、保護者・地域の皆様から信頼される園づくりに努めてまいります。

実施年月

2026年03月

表示

スコアレポート



まとめ 大項目ごとのスコアランキング

※重点課題になるものを「行動計画反映状況」から入力してください。

ランク	項目	スコア	重要度	総括/小項目詳細
1	5.食育の推進	4.00	中	非表示

総括	調理スタッフと保育士、保護者の三者が密に連携し、アレルギー対応や情報共有が非常に円滑。個々の喫食状況に合わせたきめ細やかな対応が継続されている。			保存
1	5-1.調理スタッフや管理栄養士、保護者と連携し、個々の食物アレルギー、食事の様子などの情報共有を定期的に行っている	4.00	中	行動計画に反映する▼
2	7.災害対策	4.00	高	非表示
総括	災害マニュアルの周知が徹底されており、いつ起こるかわからない有事への備えが全職員に浸透している。定期的な訓練を通じ、即応体制の維持に努めている。			保存
1	7-1.園の災害対応マニュアルが周知されており、それに則り対応できるよう備えが出来ている	4.00	高	行動計画に反映する▼
3	8.家庭との連携（在園児）	4.00	中	非表示
総括	日々の情報共有に加え、保護者の悩みに対する寄り添いや地域ニーズの把握が非常に手厚い。園と家庭の信頼関係構築が、園運営の大きな支柱となっている。			保存
1	8-1.子どもの体調や様子について保育内で情報共有が行えている。また保護者への情報共有ができてきている	4.00	中	行動計画に反映する▼
2	8-2.活動内容を伝えるだけでなく、個々の学びや成長の変化について保護者へ伝えることが出来ている	4.00	低	行動計画に反映する▼
3	8-3.保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になれるよう心掛け、対応している	4.00	高	行動計画に反映する▼
4	8-4.入園希望者など地域の保育ニーズを把握し、必要に応じ、自治体情報の提供や子育て相談に対応している	4.00	高	行動計画に反映する▼
4	9.職員の資質向上・フォローについて	4.00	中	非表示
総括	リーダー層の率先した行動や、心理的安全性の高い職場環境づくりが功を奏している。自己研鑽と相互フォローの文化が定着しており、組織としての成長が見られる。			保存
1	9-1.職員が個人の目標/振り返りを通し課題を見つけ、その課題の解決に取り組んでいる	4.00	中	行動計画に反映する▼
2	9-2.リーダーとして園長、管理者、主任等が率先し自身の保育知識・技術を向上させる行動ができてきている。また、学んだ知識やスキルを職員へ共有する機会・行動を行なっている	4.00	低	行動計画に反映する▼
3	9-3.保育現場において上司や同僚から振り返り、助言を安心して受けられる環境・機会を設けている	4.00	高	行動計画に反映する▼
4	9-4.園の決定事項共有事項について、職員が納得できるよう十分に理解を促す配慮が出来ている	4.00	高	行動計画に反映する▼
5	6.安全管理	3.67	高	非表示
総括	SIDS対策やヒヤリハットの共有は高い水準で実施。基本マニュアルの遵守を徹底しつつ、事故防止に対する職員の意識を常に高い状態で維持する体制を構築している。			保存
1	6-1.感染症、事故防止など安全管理に対する施設方針やマニュアルが整備され、職員が理解し、実践している	3.00	高	行動計画に反映する▼
2	6-2.アレルギー児への対応/対策、午睡時のチェック管理、SIDS等について定期的な注意喚起がなされている。また職員が業務にて意識し取り組んでいる	4.00	高	行動計画に反映する▼
3	6-3.施設内で起こった事故およびヒヤリハットを職員全員が共有できる場や方法を設けている	4.00	中	行動計画に反映する▼
6	1.基本的理念と保育方針	3.00	高	非表示
総括	理念の理解や人権配慮など、保育の根幹となる部分は標準的に遂行されている。今後は、主体性を引き出す援助の具体例を職員間で深め、さらなる質の向上を目指す。			保存
1	1-1.施設として子どもの人権に十分配慮するとともに、健生の保育理念/目標/方針を目指した保育が行われている	3.00	高	行動計画に反映する▼
2	1-2.先入観による固定的な観念を植え付けない保育が行われている	3.00	高	行動計画に反映する▼
3	1-3.施設として子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って活動できるような保育/援助ができて いる 	3.00	高	行動計画に反映する▼

7	2.保育のねらい・計画・評価	3.00	高	非表示
総括	指導計画の作成や共有は適切に行われている。各年齢の発達段階に応じた「10の姿」の意識をより具体的に日々の記録や活動に落とし込むための校内研修を強化したい。			保存
1	2-1.子どもの発達の過程、特徴を理解し、保育方針や月のねらいに即した保育/援助ができています	3.00	高	行動計画に反映する▼
2	2-2.職員が入園から就学（卒園）までの発達の連続性、保育指針にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をイメージ・理解して保育が提供できている	3.00	中	行動計画に反映する▼
3	2-3.保育目標やねらいを基に、各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している	3.00	高	行動計画に反映する▼
4	2-4.職員へ保育/指導計画の共有が行われ、具体的な計画・実行・振り返りについてディスカッションできる場がある	3.00	高	行動計画に反映する▼
8	3.特別支援・障がい児保育	3.00	低	非表示
総括	個別配慮の立案はなされている。多様な特性を持つ子ども一人ひとりに対し、より専門的な視点を持った関わりができるよう、外部研修の活用や専門機関との連携を密にする。			保存
1	3-1.障害のある子どもの特性に合わせた個別配慮を立案し、個別の配慮を念頭とした関わりが現場でできている	3.00	低	行動計画に反映する▼
9	4.保育内容	3.00	中	非表示
総括	基本的な生活習慣の定着や異年齢交流は安定している。今後は、将来の学びにつながる言語・数概念などの環境構成を工夫し、子どもの興味をより広げる取り組みを推進する。			保存
1	4-1.生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくような保育士の関わり、援助が保育内で展開されている	3.00	中	行動計画に反映する▼
2	4-2.各年齢/クラスごとの発育/成長に応じた保育活動・環境づくりをしている 	3.00	高	行動計画に反映する▼
3	4-3.異年齢の交流活動など子ども同士の関わりや集団における社会性の成長を目指した保育が実践できている	3.00	低	行動計画に反映する▼
4	4-4.言葉や数字など将来につながる様々な学習機会を保育内で取り入れ、実践している。	3.00	低	行動計画に反映する▼